



2018・6・11

第 308 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

3000 万署名 目標達成へさらに奮闘を決意

署名提出の第 1 次集会ひらく

九条の会も参加して 3000 万署名をすすめている安倍 9 条改憲 NO! 全国市民アクションは 6 月 7 日、4 月末までに集約された 1350 万人の署名を国会に提出する第 1 次提出集会を開きました。集会には署名運動をすすめてきた地域や団体の人びとが参加。立憲民主党の枝野幸男代表、共産党の志位和夫委員長、無所属の会の岡田克也代表、自由党の小沢一郎代表、社民党の照屋寛徳国対委員長、沖縄の風の糸数慶子代表があいさつ、安倍 9 条改憲の企てをきびしく批判しました。

参加者を代表して団体・個人からも発言あり、そのなかで九条の会の小森陽一事務局長は、会の草の根の取り組みのなかで有権者の 4 分の 1 の目標を掲げ、それを達成する会が出てきていることを報告しました。

目標達成へ地域訪問で対話

【長野県上田市／城下 9 条の会】 城下(しろした)9 条の会は 5 月 30 日、安倍 9 条改憲反対 3000 万人署名の地域訪問を行い、6 人が参加しました。

地域訪問行動は「全一斉街宣・署名週間」に呼応したもので 27 日に続き、2 回目です。

参加し茂木優さん(89)は「強化週間が呼びかけられて、『よしっ』という気持ちになった」とし、それまでの訪問行動より参加が多いと語ります。

訪問先で「9 条の会です」と告げると「サインします」とすぐ応える若い女性。ガーデニング中の女性も「はい、喜んで」と署名に応じました。「言い訳ばかり」と安倍政権に怒る男性は、森本・加計問題だけでなく、働き方改革法案も「ひどすぎる」と語りました。

城下地域の入口はおよそ 1 万 3000 人。署名の目標は 3000 人です。署名到達は 1170 人を超えました。

世話人が中心になって、およそ 270 人の会員に署名用紙を手渡し中心に、回収日を決めて署名を集約。地域訪問で署名を集め、ニュースで経験を知らせ推進。代表世話人の松本務さん(89)は封書に自筆のメッセージをつけて署名を依頼し、150 人以上の署名を集めました。

事務局の島田佳幸さんは提出集会後も

「さらに署名を広げたい」と語りました。

道内 100 万人の目標達成へ交流

【北海道／九条ネットワーク北海道】

安倍 9 条改憲ノー 3000 万人署名を北海道内で 100 万人集めて安倍政権の改憲策動を打ち破り、退陣させようと、北海道内の 9 条の会で構成する「九条ネットワーク北海道」は 2 日、第 7 回経験交流集會を札幌市で開き、交流しました。

北海道では 5 月末現在で、65 万 6000 人 (65・6%) の署名を集約しています。

「戦争させない市民の風・北海道」の上田文雄共同代表 (前札幌市長) が「九条壊憲を許さない私たちのたたかい」と題して講演。9 条に自衛隊が明記されると何か起こるかと問題を提起し、「軍事装備への制限がなくなり、軍事予算は際限なく増えていくことになり、軍事費の増大は国民サービス、社会保障を後退させる」と警鐘を鳴らしました。

「9 条は、国民の安全・安心を確保するため、政府に平和な社会をつくるため貢献することを求めている」と指摘する上田氏。

「署名目標を達成することで、改憲発議しても、改憲は許さないとの意思を示すことになる」と力を込めました。

保育士の女性は「ネットで検索すれば知りたいことが出てきますが、本当なのかはわからない。平和や 9 条を話題にして、身近な人と話すことが大事ですね」と話しました。

3000 万署名達成へ学習・交流し

【千葉県／九条の会・ちばけん等】 「九

条の会・ちばけん」と「九条の会・千葉地方ネット」は 2 日、「安倍 9 条改憲阻止！千葉県民集會」を開き、約 1000 人が参加しました。首都大学教授で憲法学者の木村草太が講演、立憲主義という考え方を基につくられた日本国憲法について解説しました。

集會では、「四街道・9 条の会」「活かせ 9 条松戸ネット」「九条の会・千葉地方議員」の代表が 3000 万人署名運動の取り組みなどを紹介しました。

宗派をこえて反対を訴え

【宗教者】カトリックのシスターらキリスト者をはじめ仏教、神教者などが 2 日、安倍政権による憲法 9 条改憲に反対する 3000 万人署名の呼びかけを東京の JR 新宿駅で行いました。日本カトリック正義と平和協議会など 4 団体が共催する 2 回目のとり組みです。

汗ばむ陽気の中、参加者は額の汗を光らせながら「平和を守る署名です」と通行人に訴えを行いました。ベビーカーを押す若い男性や、高齢の夫妻がそろって署名するなか、署名した若い男性 (17) は「9 条が変えられようとしているなんて知らなかった。憲法はこのままでいい」と話しました。

呼びかけ人の一人で、ベリス・メルセス宣教修道女会のシスター清水靖子さん (81) は「日本と世界の平和に貢献してきた 9 条は変えさせない。国家を私物化する安倍首相のもとでの改憲は命をかけてでも阻止したい。私たちシスターも黙っていることはできない」と力を込めました。

「平和といのち・イグナチオ 9 条の会」のメンバー津村順一さん (52) は、「軍人だ

った父から終戦を知らずにフィリピンのジャングルでたたかっていたと聞いて育った。戦争は起こしてはいけない」と話しました。

キャンパスから運動を広げる

【名古屋市／「九条の会」愛知・大学人の会等】 「安倍政権が狙う憲法 9 条改憲阻止へ、キャンパスから運動を広げていこう」と東海地方の大学人の交流集会在 5 月 31 日夜、名古屋市立大学で開かれました。東海地方で活動する大学人らが集まり、講演を聞いて各大学での取り組みなどを交流しました。「九条の会」愛知・大学人の会、名市大九条の会が主催しました。

名古屋学院大学の飯島繁明教授(憲法学)が「現在の改憲動向について～『真に戦える自衛隊』への変容」と題して講演しました。安倍自公政権下で、自衛隊が海外での武力行使可能な装備と組織を持ち、訓練も海外派兵型へと大きく変容している現状を告発。日本防衛と関係ない戦争でアメリカと一体に自衛隊が戦闘させられる危険性を指摘し、こうした自衛隊を 9 条改憲で認めていいのか「私たちが社会に問う必要がある」と訴えました。

後半は各大学での取り組みを交流。市民や複数の団体と一諸になって学習会や講演会を開いてきた経験、高校で主権者教育や平和、憲法教育に取り組む実践などが報告されました。軍事研究の問題や、政治的中立を保つという理由で学内の会場を借りられないなどの現状も出され、「大学の新自由主義化を打破していく動きをつくっていかねければ」「もっと学内での地道な活動を広げたい」との声も出されました。

姪が送ってくれた 100 筆

【神奈川県横須賀市／横須賀市民九条の会】

《丸岡弓子さん》 茨城県在住の姪に署名をお願いしました。前回の 2000 万署名の時は断られたのですが、今回は 1 ヶ月で 100 筆が戻ってきて驚きました。どういう動きで署名を採ったのか書いてもらいました。

《茨城県 黒澤かおりさん》 今回なぜ署名活動を行ったかという、集団的自衛権については TV 等で観て少し知識があったこと。男の子の母になったこと。戦争体験者の方が、考えに賛同し署名活動をして下さったことです。

夏休みに息子と住んでいる地域の戦争について調べたことがありました。戦争体験者の話や、手記、防空壕や焼け跡、爆弾の投下跡、慰霊碑を回り、戦争は 2 度と起こしてはいけないと感じた時に、署名の話をいただきました。

職場で署名をお願いしました。賛成の方、反対の方、色々な方がいらっしゃいました。その中に、80 代の女性が、「戦争は絶対にダメだ。繰り返してはいけない。」と、署名用紙を沢山コピーをし、ありとあらゆる知り合いをお願いして下さったのです。そして、賛同して下さった方が、さらには署名活動をして下さり沢山の署名が集まりました。そんな姿を身近で見ている自分も活動せずにはいられませんでした。今も地球のどこかでテロや戦争が起き、失われなくてよい命が失われているのが現実。日本にもその戦火が何時きてもおかしくない今、自分で自分の国を守れない法律は変

えなければならぬのかもしれませんが。でも地球上で自分の大切な人に戦地に行つて欲しい人なんていないと思います。

法律を変えなくてもいい世の中になつて欲しいと願つてやみません。これからはもっと戦争に対して知識をつけ1人1人が考え発言しなければいけないと思います。

(市民の会「ワイワイデッキ」6月1日号)

駅も繁華街もない島での運動

【東京都大島町／平和と憲法を語る大島の会】 「平和と憲法を語る大島の会」(九条の会)が呼びかけて結成した、「守ろう平和憲法大島連絡会」を中心に活動しています。

大島は駅も繁華街もないので、路上で手作りの旗と横断幕(5月3日の憲法集会のプラカード・コンクールで入賞!)を立てて街頭宣伝を数回実施しました。

車椅子に座つてマイクを握つた仲間は、80年以上の人生の体験から、平和の尊さを切々と語りました。“大島の宝”『大島憲章』(戦後、日本国憲法に先駆けて島民自らの手で作つた憲法)を語り、先人たちの平和への熱い思いを引き継いで行こうと訴えた仲間もいました。

車上から手を振る人、車を止めて話しかけてくる人など、とても良い反応です。行動にはいつも20人前後の仲間が張りきつて参加。宣伝と旗持ち以外の人たちは、署名用紙と連絡会が作成したチラシ(3500部の新聞折込み)を手に戸別訪問です。

はじめ、「署名はしない」と言つていた人が、戦争当時の辛い体験を語り合うなかで、「やっぱり平和が一番だね。戦争はイヤだ。

署名するよ」と署名に応じるなど、対話しながら署名活動が進められています。

連絡会では、署名活動を通じて多くの人たちと、平和憲法について話し合うことを大切にし、署名活動の体験を交流しています。有権者の3割にあたる2000筆が目標ですが、5月3日現在の署名数は1650筆となりました。

署名数の目標達成と同時に、島民と語り合い、平和への熱い思いを引き継いでいく活動を続けていこうと思います。

平和憲法を語る大島の会 代表 中田保
(「東京革新懇ニュース」第433号)

観劇を楽しむため「会」立ち上げ

【宝塚ファン・9条の会】 「50年代からの宝塚ファンである私たち2人は、『平和であつてこそ宝塚歌劇!』との想いで『戦後70年・2015年の幕が降りようとしている12月30日に会を立ち上げました。戦時中、宝塚レビューは禁止され、大劇場は海軍に接収されて予科練の宿舎になり、宝塚の生徒らは各地の日本軍への慰問公演に動員されていたのです。お芝居も検閲とかで自由にできません。…」

角倉洋子さん、會澤紀子の2人による『宝塚ファン・9条の会』にご参加下さい!とのチラシはこうよびかけています。2人はこのチラシを5月31日、初めて東京宝塚劇場の前で配布し署名を呼びかけました。市民アクションの横断幕とファン9条の会ののぼりを掲げての行動はとても緊張した1時間だったとのことですが、2人で署名をしてくれた夫婦は、これらから観劇ですと会場に向かいました。